

まちづくりと連携した桜川かわづくり



施工場所：田村郡三春町字山崎～清水地内／重点整備区間：L=2,760m

県中建設事務所
三春町駐在 副主査 藤田正浩

1. 概要

- ・桜川は、三春町の中心市街地を貫流し阿武隈山地の山あいを縫うように東西に流れ、郡山市で阿武隈川に至る総延長約12kmの河川である。
- ・三春町は江戸期の城下町の街路や市街地の構造が現在まで受け継がれ、桜川沿いの裏道には往時の面影を伝える古い建造物・蔵などが多数現存しており、また、桜川周辺の神社仏閣には毎年全国から多くの観光客が訪れる名物桜があり、町ではこれらの貴重な歴史的資源と自然資源を保全・活用したまちづくりが進められている。
- ・町の中心市街地を流れる桜川は、河川断面が小さく出水時には流下能力が不足し、集中豪雨や台風により度々広範囲に浸水被害が発生しているため、これらの浸水被害の解消に加え、“まちづくり”と連携しながら、歴史的景観との調和や自然環境に配慮した“かわづくり”を進めている。



2. 桜川景観デザイン基本方針

- ・三春町にふさわしい景観を備えたかわづくりを行うため、有識者と地域住民による「桜川景観検討委員会」を開催し、桜川景観デザイン基本方針の“コンセプト”や“整備方針”の策定している。
- ・かわづくりの景観整備に関する意見交換や沿川のまちづくり構想との連携を図るため、地域住民参加による「桜川景観・まちづくりワークショップ」を開催し、かわづくりの景観デザインに活かしている。

《桜川景観デザイン基本方針》

■コンセプト

うるおいと親しみのある桜川プロムナードづくり

■整備方針

- ①豊かな自然環境を保全し活用する
- ②歴史的・文化的な資源を保全し活用する
- ③桜川沿いのまちなみ形成を積極的に進める
- ④歩行回遊ネットワークの整備を進める

◆桜川景観検討委員会

開催回数：5回
(H20:3回, H21:2回)

◆桜川景観・まちづくりWS

開催回数：9回
(H20:5回, H21:4回)



桜川景観検討委員会



桜川景観・まちづくりWS



3. かわづくり実施事例

① 豊かな自然環境の保全・活用

河床幅を2～3倍程度拡げたが、水際部に寄石を設置することで河床の低下を軽減するとともに低水路の形成を促し、水生生物の生息空間を確保している。



② 歴史的・文化的な資源の保全・活用

三春町らしい城下町のまち並みを保全・活用した景観形成を促すため、『自然石』を使った石積護岸により城下町にふさわしい趣のある河川景観としている。



③ 桜川沿いの積極的なまちなみ形成

川沿の歴史的建造物などと一体的なまち並み景観形成を図るとともに、憩いの拠点として、階段護岸や水辺テラスを設けた親水公園の整備を行っている。



④ 歩行回遊ネットワークの整備

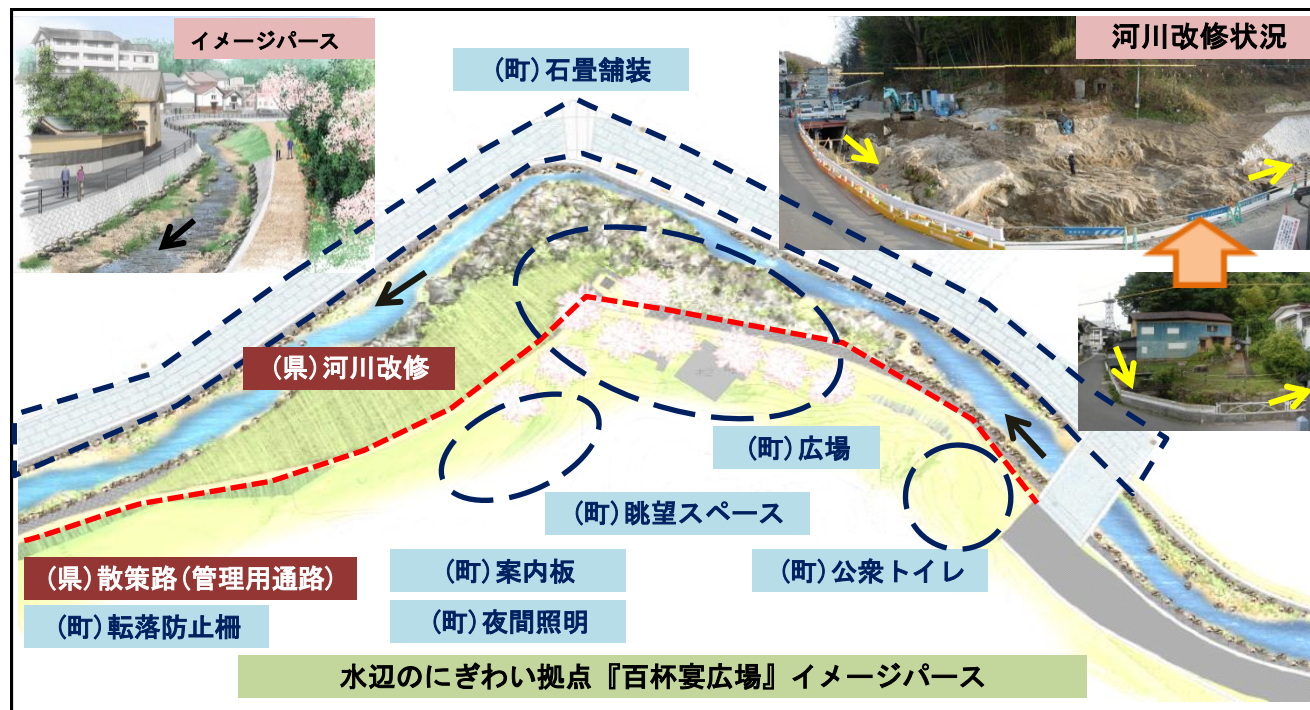
河川改修で整備した管理用通路に町が転落防止柵を整備し、プロムナード（散策路）として歩行者通路の導線を確保し、歩行回遊のネットワーク形成を図っている。



4. まちづくりとの連携事例

・まちづくりと一体となった拠点づくりとして、「水辺のにぎわい拠点」と位置づけられている『百杯宴広場』では、イベント等が以前から開催されており、河川改修後も親水広場としてより活発な利活用ができるよう、町施行において広場、散策路、石畳舗装などを整備し、県と町との協働で、かわづくりとまちづくりが一体となった親水空間の形成を図っている。

※百杯宴は、三春町の商工会館裏手の桜川脇で開かれたとされ、石碑が残っている。宴を開いたのは三春の儒家の川前紫溪（しけい）で、自由民権運動の河野広中に「広中」の名を授けたとして知られる。学問や芸術に幅広く通じる一方、酒豪で川前を慕う人は贈り物に迷わず杯を選んだという。贈り物で受けた杯が百を数えたのを記念し、安政4（1857）年に花見の宴「百杯宴」を開いた。学問や文化を愛するものが集い豪快かつ風流な宴が繰り広げられたというもの。



5. おわりに

- ・桜川かわづくりは、地域の方々のご理解やご協力のもと、歴史的景観との調和や自然環境に配慮しながら、浸水被害の早期解消に向けて、短期間での集中的投資によって平成26年度に改修が完了する見込みであり、改修後は安全で安心できる生活環境が確保される。
- ・改修完了後は、うるおいと親しみのある桜川として地域の方々と協働して良好な維持管理が持続できるよう努めていきたい。